

平成 19 年度
プロジェクト研究報告書

小学校における教師と保護者間のコミュニケーションを補助する SNS の構築

1080394 橋田 味加子

指導教員 妻鳥 貴彦

2008 年 3 月 7 日

高知工科大学 情報システム工学科

要 旨

小学校における教師と保護者間のコミュニケーションを補助する SNS の構築

橋田 味加子

近年小学校において、教師と保護者間でのコミュニケーションが不足する問題が起こっている。この問題が起きる原因として、連絡手段や教師と保護者の持つ意識の違いによる問題点がある。しかし、学校と家庭のコミュニケーションは、教育の面や学校業務を行う際など様々な面において大変重要であり、教師と保護者間でのコミュニケーション不足は児童の教育に悪影響を与える場合も考えられる。また、学校に対して強力な要求をするモンスターペアレントと呼ばれる保護者が生まれる一因として、学校と家庭のコミュニケーション不足があるとされている。

本研究では学校と家庭のコミュニケーションの補助を目的としたシステムを設計、構築する。その際、近年変化しているコミュニケーションの中で求められるコミュニケーションを考察し、SNS(Social Networking Service) を利用してこの問題を解決することを提案し、システムの構築を行った。

そして、小学校教員を対象に本システムの有効性などについて評価実験を行い、システムの有効性を確認した。

キーワード 教師と保護者のコミュニケーション，児童の教育，SNS

目次

第 1 章	はじめに	1
第 2 章	研究の背景	2
2.1	小学校における教師と保護者のコミュニケーションの現状	2
2.1.1	現在のコミュニケーション手段	3
2.1.2	教師と保護者の意識	4
2.2	現在のコミュニケーションにおける問題点	5
2.2.1	手段による問題点	5
2.2.2	意識による問題点	6
2.3	研究の目的	6
第 3 章	教師と保護者のコミュニケーション	7
3.1	近年のコミュニケーション	7
3.1.1	現在求められるコミュニケーション	7
3.2	SNS の利用	8
3.3	一般的な SNS	8
3.3.1	一般的な SNS の利点	9
3.3.2	一般的な SNS の欠点	9
3.4	本研究での SNS	10
3.4.1	本研究での SNS の利点	10
3.4.2	本研究での SNS の欠点	10
第 4 章	教師と保護者のコミュニケーションを補助するシステムの設計	11
4.1	システムの提案	11
4.1.1	本研究での SNS	11

目次

4.2	システムに必要な機能	12
4.2.1	システムの管理	13
第 5 章	システムの実装	14
5.1	システムの概要	14
5.2	システムの構成	15
5.2.1	教師用システム	15
5.2.2	保護者用システム	17
第 6 章	システムの評価	19
6.1	評価環境	19
6.2	評価内容	19
6.3	教師と保護者のコミュニケーションに関する調査	20
6.3.1	教師と保護者間のコミュニケーションに関するアンケート結果	20
6.3.2	教師と保護者間のコミュニケーションに対する考察	21
6.4	本システムに関する調査	22
6.4.1	本システムに対するアンケート結果	22
6.4.2	システムに対するアンケートの考察	23
6.5	評価実験のまとめ	24
第 7 章	おわりに	26
7.1	まとめ	26
7.2	今後の課題	26
謝辞		27
参考文献		28

目次

5.1 システムの構成	14
5.2 スケジュール表示画面	16
5.3 教師用画面	17
5.4 保護者用画面	18

第 1 章

はじめに

近年小学校において，教師と保護者間でのコミュニケーション不足が問題となっている．コミュニケーション不足が起こる原因として，現在のコミュニケーション手段では十分なコミュニケーションがとれないということや，教師と保護者の時間が合わずコミュニケーションがとりづらいといったことが挙げられる．同時にコミュニケーション不足は，学校に強力な要求をするモンスターペアレントと呼ばれる保護者が生まれる一因にもなっている．このような保護者が生まれたことで，学校が保護者とのコミュニケーションを避ける傾向がある．

しかし，学校と家庭のコミュニケーションは大変重要である．児童の教育は学校と家庭で協力して行わなければならない，教師と保護者のコミュニケーションは必要不可欠である．

そこで，教師と保護者間のコミュニケーション不足を解決するための新たな手段として SNS(Social Networking Service) の導入を提案する．本研究では，教師と保護者間のコミュニケーションに特化した SNS の構築を行う．本来 SNS は人間関係を構築するものであるため，様々な機能が用意されているが，本研究の目的から必要な機能を検討し，実装や削除を行う．

第 2 章

研究の背景

2.1 小学校における教師と保護者のコミュニケーションの現状

小学校において児童の教育は、教師と保護者が協力して行うものである。そのため、教師と保護者のコミュニケーションは重要であり、密なコミュニケーションが必要である。児童の些細な変化でも、教師と保護者で児童に関する様々な情報を共有するのが望ましい。また、文部科学省の小学校学習指導要領においては、児童の道徳教育において家庭との連携を図りながら、児童の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮しなければならないと示している [1]。

教師と保護者のコミュニケーションを行う目的は次の通りである。

- 情報の伝達

小学校での生活において、必要な情報を伝える。

- 児童の教育

教師と保護者が協力し、児童の教育を行う。また、配布物を渡すことも児童の教育である。

- 学校内の出来事を伝える

保護者があまり知ることのない、普段どのようなことが起きているかを伝える。

- 学校に対する信頼

学校での出来事を保護者が知ることや十分なコミュニケーションをとることで、学校に対する信頼が生まれる。

2.1 小学校における教師と保護者のコミュニケーションの現状

このように教師から保護者へ情報の伝達や児童の教育を行うだけでなく、学校内の出来事を伝えることにより、学校に対する信頼を得なければならない。

しかし、長年教師と保護者間で十分なコミュニケーションがとられていたが、近年ではコミュニケーション不足が起こっている。このことにより、保護者が児童の学校での生活や出来事を知ることができず、その不信感から学校に対して様々な要求をするモンスターペアレントと呼ばれる保護者が生まれる。また、このような保護者が生まれることで、さらに学校が保護者とのコミュニケーションを避ける傾向があり、そうでない保護者にもコミュニケーション不足が広がる可能性がある。

2.1.1 現在のコミュニケーション手段

現在、教師と保護者間でのコミュニケーション手段には以下に示すものがあり、それらは伝える情報の内容や目的によって使い分けられている。

- 連絡帳

個人への伝達事項を伝える際に利用する。

- プリントなど配布物

クラスや学年全体への伝達事項を伝える際に利用する。

- 電話

保護者に直接連絡をとりたい場合に利用する。

- 電子メール

電話をするほどではないが、連絡を取りたい場合に利用する。但し、教師のメールアドレスを公開できない場合には、この手段は利用不可能である。

- 面談

児童の学習状況や成績などを伝達する際に利用する。

これらの手段の中で日常的に利用されているものは、連絡帳、配布物、電話、電子メールである。また、保護者から教師へのコミュニケーション手段は次の通りである。

2.1 小学校における教師と保護者のコミュニケーションの現状

- 連絡帳

児童のことについて、教師に連絡しておきたい場合などに利用する。

- 電話

教師に直接連絡をとりたい場合に利用する。

- 電子メール

電話には及ばないが、教師と直接連絡をとりたい場合に利用する。

2.1.2 教師と保護者の意識

昨年行われた小学校教師と保護者を対象にしたインターネット調査では、以下のような結果が出ている [2][3]。

1. 児童の教育における学校と保護者間のコミュニケーションの重要性について

アンケート対象である 8 割以上の保護者が、児童の教育において学校と家庭とのコミュニケーションが重要であると認識している。

2. 教師と保護者間でコミュニケーションがとれているか

児童の保護者と全くコミュニケーションがとれていないと感じている教師は 1 % しかない。しかし、担任教師と全くコミュニケーションが取れていないと感じている保護者は 26 % もいる。この結果から、教師と保護者で意識の違いがあることがわかる。

3. 現在のコミュニケーション手段について

アンケート対象である保護者の半数以上が、学校とのコミュニケーションが不便であると感じている。

4. 連絡手段としての IT の有効性について

対象者のうち教師の約 5 割、保護者の約 6 割がコミュニケーション手段として情報機器の利用が有効であると回答している。ただし対面でのコミュニケーションが第一であり、情報機器に頼りすぎてはいけないという意見もある。

2.2 現在のコミュニケーションにおける問題点

この結果から、保護者が教師とのコミュニケーションが重要であると認識していることがわかる。しかし、教師も保護者も現在のコミュニケーション手段では十分なコミュニケーションがとれないと感じている。また、コミュニケーション手段として情報機器の利用は有効であると考えている人が多い。そのため、対面でのコミュニケーションを失くすことなく、情報機器を用いたコミュニケーションが有効であると考察する。

2.2 現在のコミュニケーションにおける問題点

教師と保護者間のコミュニケーションの現状における問題点として、現在のコミュニケーション手段における問題点と、教師と保護者の意識による問題点が挙げられる。

2.2.1 手段による問題点

現在、コミュニケーション手段として連絡帳、配布物、電話、電子メールといった手段が利用されているが、これらの手段は確実とはいえない。連絡帳や配布物は児童を介しての手段であり、児童の渡し忘れが起こる可能性が高く確実ではない。しかし、児童が教師から受け取った配布物などを保護者に届けることは、小学校では教育の一環である。教師が保護者へ直接連絡をするのではなく、児童を介して行っているということから、情報を確実に保護者へ伝達することよりも、児童の教育を行うことに重点を置いていると考えられる。また、年々共働きの保護者が増えており、そのような保護者と教師では連絡可能な時間が合わず電話での連絡も難しい。保護者から教師に電話をする際には、教師の時間を拘束してしまうなどの理由で保護者が敬遠し、連絡がとりづらいという問題点もある。その点電子メールでのコミュニケーションは相手の時間を気にせず連絡が可能であるが、全ての小学校教員が学校のメールアドレスを利用できるわけではない。また、教師が私物の携帯電話のメールアドレスを公開することも多くないため、コミュニケーションがとりづらいという問題点がある。

2.3 研究の目的

2.2.2 意識による問題点

近年，モンスターペアレントと呼ばれる保護者が増えている．このような保護者に対して，学校が対応できず要求を聞き入れてしまい，別の保護者に知られることで，さらにそのような保護者が増加してしまう傾向がある．このようなことが小学校への電話禁止などの措置を取る原因となっている．しかし，小学校への電話が禁止になることによる問題点もある．例えば，児童が急な用で学校を休む場合に電話での連絡ができず，近所の友人などに連絡帳を預けることもできない場合には対処できない．このように，モンスターペアレントを避けようと閉鎖的になることで，そうでない保護者からの連絡が困難になる．モンスターペアレントが生まれる一因には，教師とのコミュニケーションが不足し，学校に不信感を抱くという点があるといわれている．

2.3 研究の目的

本研究では，前述した教師と保護者間のコミュニケーションにおける問題点を解決するシステムを構築する．この問題点を解決する新たな手段として SNS の利用を提案する．システムの設計においては，コンピュータ操作に慣れていない利用者を考慮し検討を行う．また，現在コミュニケーションの目的とされている情報の伝達，児童の教育，学校での出来事を伝えることで保護者からの信頼を得るという点を補助することを目的とする．

このシステムによって，現状のコミュニケーションを失くすことなく問題点を解決する新たなコミュニケーション手段として，教師と保護者のコミュニケーションを補助することが期待できる．

第3章

教師と保護者のコミュニケーション

3.1 近年のコミュニケーション

近年，少子化や核家族化，また都市化や高度情報化といった社会情勢の変化が起こると同時に，様々な問題も生まれている．そのひとつとして，地縁的な繋がりによる地域の教育力の低下がある．従来は同年代だけでなく異なる年代の人々とも交流することで，社会全体で子供が育てられていた．しかし近年，少子化などの影響で親が子供に対して過保護や過干渉になることで，特に対人関係における耐性が未発達といったコミュニケーション力の低下がある．また，社会全体のコミュニケーション力が低下していると考えられる．

対面だけでのコミュニケーションだけでなく，情報機器を用いた電子メールや掲示板を利用したコミュニケーションも増えている．

3.1.1 現在求められるコミュニケーション

上記のようにコミュニケーションが変化する中，現在求められるコミュニケーションとして，学校と家庭や地域が協力し，教育力を充実させることが挙げられる．文部科学省は，地域全体で子育てを支えあうことや，学校が地域の教育の一主体として，保護者などと協働関係を作ることが必要であると示している [5]．これは，学校と家庭でコミュニケーションを密に取り合うことの重要性を表している．また，学校と家庭が連携することにより，児童の対人コミュニケーションや道徳教育といった知識の面で児童の教育を行っていかねばならない．

3.2 SNS の利用

教師と保護者のコミュニケーション手段として利用されている情報技術として、掲示板や電子メールがある。しかし、掲示板では第三者に閲覧される可能性や匿名性があるため、トラブルが起こることが考えられる。また、電子メールでは 2.2.1 節で述べた問題があるため、これらを個別に利用することは難しい。そこで会員制であり、様々な機能が使用できる SNS の利用が有効であると考えられる。

SNS とは Social Networking Service の略であり、人間関係を構築することを目的とした会員制のコミュニティ型サイトである。また、コミュニティで他人と意見交換することや、知人だけでなく他人の日記を読むなど、人間関係を広げるための様々な機能が用意されている。その SNS にメンバー登録している知人から招待されて登録できる招待制の SNS や、誰でも自由に登録できる SNS がある。現在 SNS の多くは、友人同士でのコミュニケーションに利用されている。

3.3 一般的な SNS

一般的な SNS には以下の機能があり、人間関係の構築や友人や知人とのコミュニケーションを行うことができる。

- マイフレンド

自分の友人一覧を表示する。

- コミュニティ

コミュニティに参加することで、同じ趣味を持った人などに出会うことができる。

- 日記

自分の日記を指定した範囲内で公開する。また、友人の日記や公開されている他人の日記を読むことも可能である。

- メッセージ

同じ SNS に登録している人とメッセージ交換を行う。

3.3 一般的な SNS

- あしあと
日記などへの訪問者履歴を表示する。
- ランキング
訪問者数のランキングや、コミュニティ参加人数ランキングを表示する
- レビュー
本や音楽に対して意見や感想を書き、公開することができる。

3.3.1 一般的な SNS の利点

一般的な SNS の利点として以下のことが挙げられる。

- 相手のメールアドレスを知らなくてもメッセージ交換が行える。
- 会員制であることから、匿名性を排除することができる。また荒らしの特定が可能である。
- 友人や知人の日記を読むことができる。
- 意見の交換を行うことができる。
- 更新がわかりやすい。
- 携帯電話からも利用できるものもあり、パソコンがない場合でも利用できる。

3.3.2 一般的な SNS の欠点

一般的な SNS の欠点として以下が挙げられる。

- 会員制ではあるが、実名で登録した場合などに個人情報が漏洩する可能性がある。
- 慣れるまでは使い方がわかりづらい。
- 参加人数の増加に伴い、管理が大変になる。

3.4 本研究での SNS

3.4 本研究での SNS

本来は友人や知人とのコミュニケーションを行うものである。しかし、本研究では教師と保護者のコミュニケーションであるため、人間関係を構築するための機能は利用せず、必要な機能のみに改良する。

3.4.1 本研究での SNS の利点

本研究での SNS による利点は以下の通りである。

- 児童による配布物の渡し忘れを防ぐことができる。
- 相手の時間を気にせず、自分の空いた時間でコミュニケーションが行える。
- 電話では大袈裟に思われることでも、堅苦しくなく伝えることができる。
- コミュニケーション手段が増える

3.4.2 本研究での SNS の欠点

本研究での SNS における欠点は以下の通りである。

- 各家庭に情報格差が生まれる可能性がある。
- 緊急連絡には利用できない。

第 4 章

教師と保護者のコミュニケーションを補助するシステムの設計

4.1 システムの提案

本研究では教師と保護者のコミュニケーションにおける問題点を解決し、新たなコミュニケーション手段として利用できるシステムを構築する。これは教師と保護者の主なコミュニケーション手段として利用するものでなく、現状の手段を補助するものである。

4.1.1 本研究での SNS

3.4 節で述べたように本研究では、教師と保護者間のコミュニケーションを目的とするため、人間関係を構築するための機能は使用しない。また、元々用意されている機能だけでは不十分なため、新たな機能を追加する。その他に、以下の点に留意した。

- 登録名は本名にする。

コミュニケーションをとる相手が誰であるか確実にするため本名で登録する。

- SNS 上での繋がりができる機能は使用しない。

コミュニティなどを使用すると、トラブルが起こったときの対処で教師の負担が増えることが予想されるため、今回は使用しない。

- 緊急時の連絡は用いない。

教師や保護者の空いた時間で利用できるようにするため、緊急時の連絡は本システムで

4.2 システムに必要な機能

は行わない。

なお、今回は保護者同士のコミュニケーションは目的としない。これは、保護者同士のコミュニケーションが可能になることにより、保護者同士でのトラブルが予想されるためである。また、教師の負担が増えることも考えられるため、本研究では考慮しない。

4.2 システムに必要な機能

本研究の目的において全ての機能が必要とされているわけではない。また、利用者はコンピュータ操作に慣れていない人も対象となるため、必要最低限の機能を実装する必要がある。

そこで必要な機能を検討した結果、以下の機能が必要であることがわかった。

- 配布物などがあることを知らせる機能

連絡帳や配布物における児童の渡し忘れを防止するための機能である。児童にとっては、教師から受け取った配布物等を保護者へ渡すのも教育の一環であるため、教師から保護者へ直接連絡をする機能は望ましくない。そこで、保護者への配布物などがあることを知らせる機能にする。

- 時間を気にせずコミュニケーションを可能にする機能

教師と保護者の時間が合わず、電話での連絡がとりづらいという問題点を解決するため、お互いが相手の時間を気にせず直接コミュニケーションがとれる機能が必要である。

またその他に、日常的なコミュニケーションでの問題点ではないが、本システムをより多くの人に利用してもらうため、以下の機能を実装する。

- 学校行事における保護者の出欠確認を行う機能

現在、学校行事などで教師が保護者の出欠確認を行う際には、児童を通してのプリントで行われている。しかしこれも児童の渡し忘れが起こり、教師まで戻ってこない場合が

4.2 システムに必要な機能

考えられる．そこで従来の方法に加えて，本システム上でも出席確認を行えるようにするものである．

- スケジュール機能

学校行事などのスケジュールを教師が入力し，保護者と共有するものである．学年ごと，クラスごとに表示できるようにする．

上記の機能を実装するにあたり，教師と保護者では必要な機能が異なる．そこで，教師用の画面と保護者用の画面を異なるものにする必要がある．

また，本研究ではオープンソースの SNS エンジンである OpenPNE を改良してシステムの構築を行う．

4.2.1 システムの管理

本システムには，ユーザ登録を行った教師，保護者の他に管理者が必要である．この管理者は，コンピュータに詳しい小学校教師が望ましい．管理者は，ユーザ管理や連絡事項に関する記事の管理が可能である．

第 5 章

システムの実装

5.1 システムの概要

本システムは、Web サーバ (Apache)、データベースサーバ (MySQL)、メールサーバ (Postfix) から構成されている。構成図を図 5.1 に示す。また、新たに教師や保護者を利用者として招待する際にメールサーバを使用する。

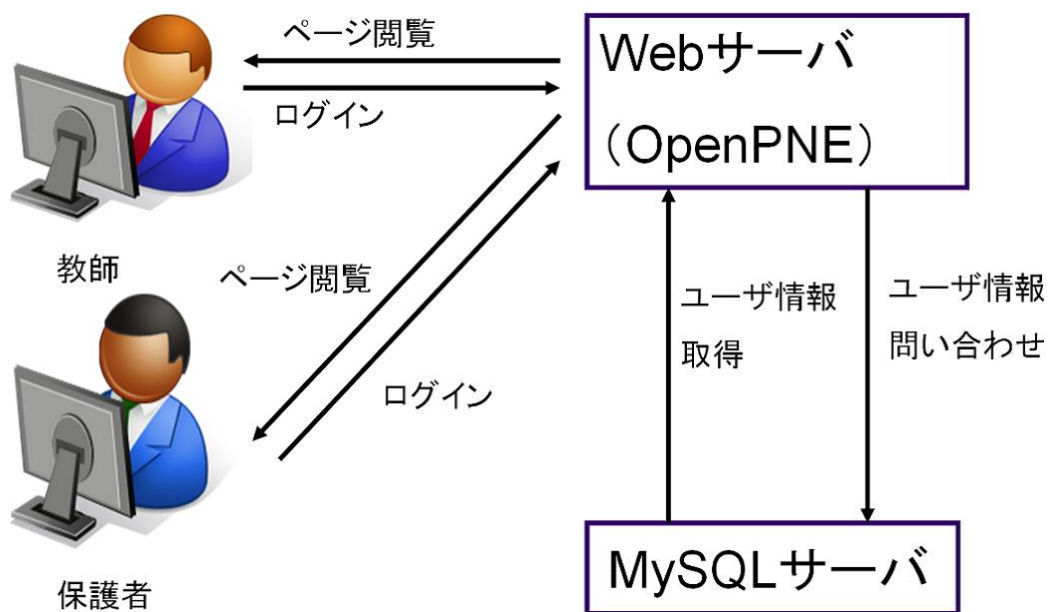


図 5.1 システムの構成

5.2 システムの構成

システムの動作は、まず SNS にログインすると MySQL サーバからユーザ情報を取得し、教師であるか保護者であるかを判別する。その後、それぞれ異なる画面が表示され、各機能の利用が可能になる。本システムは、教師用と保護者用に分かれており、ログイン後にはそれぞれ異なる画面が表示される。

各システムの機能は OpenPNE に標準で用意されている機能、OpenPNE の機能を一部を改良したもの、新しく実装した機能の 3 通りである。メッセージ機能、足跡機能は OpenPNE の機能である。連絡事項通知機能、アンケート機能、クラス一括メッセージ送信機能は OpenPNE を一部改良し、スケジュール共有機能は新たに実装した。例としてスケジュール機能では、図 5.2 のように教師は新規登録や編集を行うことが可能であるが、保護者は閲覧することしかできない。

5.2.1 教師用システム

教師用システムでは、保護者とコミュニケーションをとる際における教師の負担を軽減することを目的とする。教師がログインすると、図 5.3 のような画面が表示される。この画面にはクラスの保護者を確認することができる機能、また教師が投稿した連絡通知も確認することができる。

教師用システムでは以下の機能が利用できる。

- 連絡事項通知機能

児童に連絡帳や配布物などを渡したことを、保護者に連絡する。

- メッセージ送受信機能

保護者とメッセージ交換を行う。

- アンケート作成、集計機能

学校行事などの出席確認を行いたい際に、アンケートを作成する。保護者が回答後、自動的に集計を行う。

5.2 システムの構成

月間スケジュール一覧

前月 2008年2月 次月

学校行事は黒色 学年行事は青色 クラス行事は緑色で表しています

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3 節分	4	5	6	7	8	9
10	11 建国記念の日					
17	18					
24	25					

←保護者用

↓教師用

月間スケジュール一覧

前月 2008年2月 次月

学校行事は黒色 学年行事は青色 クラス行事は緑色で表しています

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3 節分 ↑編集	4	5	6	7	8	9
10	11 建国記念の日	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	

日付: 2008年2月20日

コメント: お楽しみ会

※全角128文字まで

種別: 学校 学年 クラス

お好きな日にちにコメントを登録できます。
※コメントがなければ記事は登録されません。

図 5.2 スケジュール表示画面

- 足跡機能

連絡事項などを保護者が確認しているかどうかを知ることができる。

- スケジュール作成，共有機能

学校行事やクラスでのイベントなどを，学年ごとやクラスごとに共有することができる。

- クラス一括メッセージ送信機能

教師の担任しているクラスの保護者に，一括でメッセージ送信ができる。

5.2 システムの構成



図 5.3 教師用画面

5.2.2 保護者用システム

保護者用システムでは、仕事をしている保護者でも時間を気にせず、教師とコミュニケーションがとれることを目的とする。

保護者がログインをすると、図 5.4 のような画面が表示され、教師からのメッセージや連絡通知があればこのページに表示される。

保護者用システムでは以下の機能が利用できる。

- 連絡事項閲覧機能

連絡帳や配布物が渡されたことを、確認する。

- メッセージ送受信機能

教師とのメッセージ交換を行う。保護者同士でのメッセージ交換は不可能である。

5.2 システムの構成



図 5.4 保護者用画面

- アンケート回答機能

学校行事などに出席するかどうかを、回答する。

- スケジュール共有機能

教師が入力した行事などのスケジュールを確認する。いつでもスケジュール確認が可能になる。

第 6 章

システムの評価

本システムの有効性，操作性，必要性について評価を行った．具体的には，教師と保護者間ではコミュニケーションが充分とられているか，コミュニケーション手段として本システムは有効であるか，本システムは使いやすいものであるかなどを調査するため，小学校教員を対象に評価実験を行った．

6.1 評価環境

評価実験は，高知大学教育学部附属小学校で行った．評価環境としては，こちらで端末を用意し，教師用ページと保護者用ページをそれぞれログイン後の状態で用意した．被験者は無作為に選んだ高知大学教育学部附属小学校教員 4 名であり，担当学年やコンピュータの利用状況は様々である．

6.2 評価内容

評価実験の内容は，システムのデモンストレーション，教師と保護者のコミュニケーションに関するアンケート及び本研究で作成したシステムに関するアンケートを行った．具体的な評価の手順は以下の通りである．

1. 評価実験における趣旨の説明
2. プレゼンテーションによるシステムの説明
3. 実際のシステムを用いた説明

6.3 教師と保護者のコミュニケーションに関する調査

4. 質疑応答，システムに関する意見交換
5. 教師と保護者間のコミュニケーションに対するアンケート
6. システムについての評価アンケート

6.3 教師と保護者のコミュニケーションに関する調査

教師と保護者間でのコミュニケーションの現状を調査するため，以下のアンケートを行った．

6.3.1 教師と保護者間のコミュニケーションに関するアンケート結果

教師と保護者間のコミュニケーションに関するアンケート結果は以下の通りである．

1. 現在担当している学年

1年	2年	3年	4年	5年	6年	専科
		3				1

2. 現在のコミュニケーション手段 (複数回答可)

連絡帳	配布物	電話	電子メール交換	
			学校付与のアドレス	教師私物携帯電話のアドレス
3	4	4	2	2

3. 児童の教育において，学校と家庭のコミュニケーションが重要か

大変重要である	重要である	あまり重要ではない	重要ではない
4			

4. 現在コミュニケーションが充分にとれているか

全員と充分	一部とは充分	必要最低限	あまりとれていない	不十分
	2	2		

6.3 教師と保護者のコミュニケーションに関する調査

5. コミュニケーションがとれていない理由 (自由記述)

- 学校に協力的な保護者とはよく顔を合わし会話もするが、学校に来ることのない保護者は交流が少なくなる。
- 機会や手段がなく双方向でのコミュニケーションは充分でない。何かあればコミュニケーションをとるが、問題がない場合はコミュニケーションがとれていない。
- 懇談などに欠かさず出席する保護者には直接連絡できているが、そうでない保護者などもある。その場合に配布文書も届いていないこともある。

6. コミュニケーション手段として情報機器の利用が有効であるか

とても有効	有効	あまり有効でない	全く有効でない
	4		

6.3.2 教師と保護者間のコミュニケーションに対する考察

教師と保護者間のコミュニケーションの現状について、「一部とは密にとれている」「必要最低限である」が各2名ずつ回答していることから、現在は家庭とのコミュニケーションが充分でないということがわかった。コミュニケーション不足の原因としては、機会や手段がないといった意見が挙げられた。保護者が積極的にコミュニケーションをとらない理由として、時間がないことや教師の手を煩わせることを懸念して積極的なコミュニケーションをとらないといった原因も考えられる。実際に、児童のことで教師に聞きたいことがあったが、教師に迷惑がかかるかもしれないという思いから、連絡をとることが出来なかったという体験談も聞くことができた。しかし、4名全員が教師と保護者間でのコミュニケーションについて「大変重要である」と回答しており、密なコミュニケーションが必要である。

また、保護者とのコミュニケーションへの情報機器の利用は4名が「有効である」と回答しており、コミュニケーション手段としての情報機器の利用は有効であると考えられる。

上記のことから、教師は保護者とのコミュニケーションは児童の教育にとって大変重要であると感じているが、実際には十分なコミュニケーションがとられていないことが確認できた。またその原因として、機会や手段がないといった意見が得られたことから、現状のコ

6.4 本システムに関する調査

コミュニケーション手段を補助できるものや、新たな手段が必要であると考えられる。特に、問題のない児童の保護者に関しては、コミュニケーションがあまりとられていないことから、そのような児童の保護者に対してもコミュニケーションをとることが必要である。さらに、実際にコミュニケーションがとりづらいと感じている保護者がいることから、容易にお互いがコミュニケーションをとりやすくすることが必要である。

6.4 本システムに関する調査

本システムの評価を行うため、以下のアンケートを行った。

6.4.1 本システムに対するアンケート結果

1. 自宅でパソコンを利用するか

使う	使わない	パソコンを所有していない
4		

2. システムが使いやすかったか

とても使いやすい	使いやすい	使いづらい	とても使いづらい
1	3		

3. コミュニケーションの補助に有効であるか

とても有効である	有効である	あまり有効でない	有効ではない
	4		

4. 実際に導入された場合、利用するか

6.4 本システムに関する調査

利用する	おそらく利用する	おそらく利用しない	利用しない
1	3		

5. 現在の機能の他に欲しい機能

- フォトアルバム機能
- 映像配信機能
- メッセージの自動消去機能

6. その他意見，要望，感想

- 教師も保護者も忙しいので，時間を気にせず送付できるところが良い
- 全員がパソコンを持っているわけではないので実用にはまだ難しい
- 様々なコミュニケーション手段があった方が良い，またシステムによっては手軽に使える
- 保護者が学校への連絡に抵抗を持っているので，このシステムなら取り組みやすい

6.4.2 システムに対するアンケートの考察

操作性に関して，1名が「とても使いやすい」3名が「使いやすい」と回答していることから，本システムの操作は容易であると考えられる．しかし，利用者の中にはコンピュータ操作になれていない人もいるため，利用者全員がとても使いやすいと感じるシステムにする必要がある．また，有効性に関しては4名が「有効である」と回答しており，本システムが教師と保護者間のコミュニケーションに有効であると考えられる．同時に全員に情報機器が利用できる環境があるわけではないため，各家庭での情報格差が生まれる可能性もあり，環境が整っていれば有効に利用できるという意見も得られた．その点，携帯電話は大多数の保護者が所持しており，携帯電話で利用できるようになれば良いのではないかと意見も得られた．

機能に関しては，メッセージ機能などにより大袈裟にならず伝えることが出来る点が良いという意見も得られた．また連絡通知機能では，児童にとっては保護者に配布物を届けるこ

6.5 評価実験のまとめ

とも教育であるため、それを失くしてはいけないという意見が得られたことから、配布物が配られたことのみを通知するのが望ましい。さらに追加が望まれる機能として、フォトアルバム機能や映像配信機能、またメッセージの自動消去機能なども挙げられており、現在使用できる機能だけでなく、教師と保護者間のコミュニケーションに有効な機能を検討し追加することが必要であると考えられる。

また、追加が望まれる機能としてフォトアルバムや動画配信が挙げられたことから、教師は積極的に保護者とのコミュニケーションをとりたいと感じていると考えられる。

6.5 評価実験のまとめ

評価実験では、本システムが教師と保護者間のコミュニケーションの補助に有効であるという結果が出た。また実際に教師の手を煩わせるという理由で、学校へ連絡をしづらいという保護者もあり、そのような場合にはとても有効であるという意見も得ることができた。コミュニケーションが不足する原因として、機会や手段がないといった意見も得られ、新たなコミュニケーション手段が必要であることから、本システムの必要性は確認された。操作性についても改良が必要であるが、ほぼ使いやすいという結果が得られた。上記のように、本システムは概ね良い評価を得ることができた。

今回は評価実験を1校でのみ行い、なおかつ被験者も4名である。これは評価の妥当性としてはデータ不足であり、より正確な評価結果を出すため多くの学校、教員に対して評価実験を行う必要がある。

またアンケートでは書かれなかったが、本システムをどのような場面で利用すべきか、その利用方法を定めることが必要であるという意見が挙げられた。そのため、今後はメッセージ交換で扱う内容などについても検討しなければならない。

さらに、今回の評価実験では本システムを利用したいという意見が得られたが、実際に利用するには教師の手間が増えるのではないかと懸念され、利用してもらえない場合も考えられる。それを防止するため、重いと感じる話はせず、楽しめるシステムにすれば良いので

6.5 評価実験のまとめ

はないかという意見も得られた。

今回は、教師からコミュニケーションをとるために必要な機能を設計し実装を行ったため、教師のみを対象に評価実験を行った。今後は、保護者の立場からもコミュニケーションをとる際に必要な機能を検討する必要がある。

第7章

おわりに

7.1 まとめ

本研究では、小学校における教師と保護者のコミュニケーション不足という問題点に着目し、その問題を解決する新たな手段となるシステムを構築した。近年のコミュニケーションの変化において、SNSの利用が有効であると考え、SNSを用いたシステムを構築した。実装は、オープンソースのSNSエンジンであるOpenPNEを改良した。その際、教師と保護者のコミュニケーションでの利用において、必要な機能を検討し、現在のコミュニケーション手段の問題を解決する機能を実装した。その結果、本システムの利用でコミュニケーションの補助は有効であるという結果が得られた。

7.2 今後の課題

今後の課題として、パソコンがない家庭でも利用できるよう携帯電話への対応が望まれる。評価実験の際にも、情報機器が利用できる環境が整っている場合は本システムが有効であるという意見が得られた。また、情報機器が利用できる環境がない場合もあるため、情報格差を無くすためにも、携帯電話で利用可能にする必要がある。また、本研究では教師からの視点でシステム構築を行った。そのため、保護者から教師へ情報を発信する機能がない。今後は保護者からも、情報を発信し双方向からのコミュニケーションをとることで、SNSをコミュニケーションの手段としてだけでなく、コミュニケーションの場として利用するといった課題も挙げられる。そのために、新たな機能の追加が必要である。

謝辞

本研究の全てにおいて、多大なるご指導を賜りました高知工科大学情報システム工学科妻鳥貴彦先生に心より御礼申し上げます。

本論文および本研究においてご助言、ご指導頂いた高知工科大学情報システム工学科福本昌弘先生に心から感謝致します。

本研究の評価実験において多大なる支援を頂きました高知大学教育学部附属小学校田鍋潤一郎氏に心から感謝致します。また、ご多忙な中評価実験に参加しご助言、ご指導頂きました高知大学教育学部附属小学校の先生方に心から感謝致します。

本論文および本研究において、多大なるご助言、ご指導頂いた本研究室修士2年生高木翔平氏に心より感謝致します。

また本論文および本研究、また様々な研究室活動においてご助言、ご指導頂きました本研究室修士2年生川島真一郎氏、木下聡氏、修士1年生寒川剛志氏、大黒隆弘氏に心から感謝致します。

本研究において、様々なご協力をしてくださった本研究室学部4年生ならびに3年生に心から感謝致します。特に、本研究室4年生藤原健太郎氏、3年生浜田洋氏、竹内雄人氏には本研究において多大なるご協力を頂き、心より感謝致します。

参考文献

- [1] ”小学校学習指導要領”，文部科学省，http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122601.htm
- [2] ”「小・中学校における教育コミュニケーションの実態」調査”，住宅・不動産情報ポータルサイト HOME'S 調査，<http://club.homes.co.jp/research/>
- [3] ”「学校と家庭とのコミュニケーション手段への意識」に関する調査”，goo リサーチポータル，<http://research.goo.ne.jp/database/data/000310/>
- [4] ”OpenPNE”，OpenPNE 運営事務局，<http://www.openpne.jp/>
- [5] ”今後の生涯学習振興方策の基本的考え方”，文部科学省，http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/07020806/002.htm